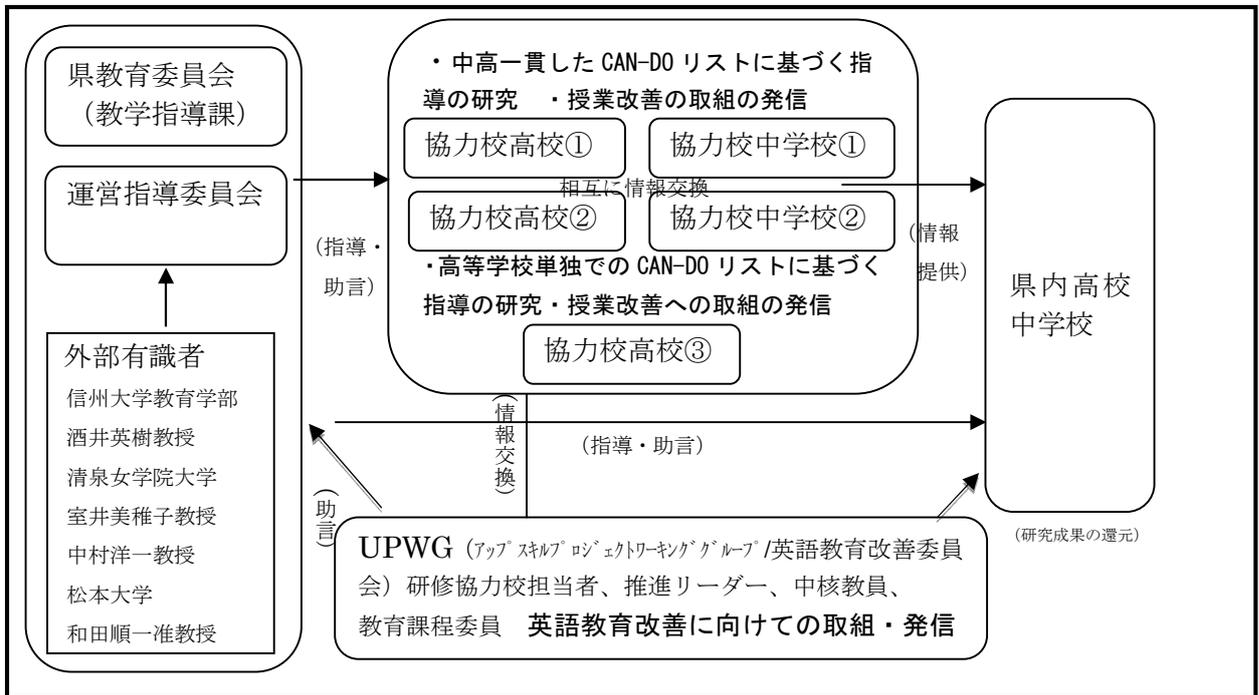


(様式3-2)

# 長野県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

域内の全中学校及び全高等学校において次の①～⑧の指標に目標を設定し、その達成のために以下の手立てを行う。

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

中学： H28 27.1%→H29 29.1% 目標：H30 35%  
 高校： H28 78.5%→H29 78.5% 目標：H30 85%

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

中学： H28 31.0%→H29 36.9% 目標：H30 40%  
 高校： H28 35.5%→H29 38.8% 目標：H30 50%

③「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

学習到達目標の整備状況

【中学校】

設定	現状 H28 54.3%→H29 92.0%	目標： H30 100%
公表	現状 H28 6.5%→H29 6.5%	目標： H30 20%
達成状況の把握	現状 H28 15.9%→H29 20.0%	目標： H30 30%

【高校】

設定	現状 H28 93.0%→H29 98.0%	目標： H30 100%
公表	現状 H28 18.7%→H29 12.3%	目標： H30 20%
達成状況の把握	現状 H28 29.9%→H29 24.7%	目標： H30 30%

## ④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

## 【中学校】

半分以上言語活動を行っている。

現状：H28 63.9%→H29 62.7% 目標：H30 70%

## 【高校】

半分以上言語活動を行っている。

現状：H28 65.3%→H29 55.3% 目標：H30 70%

## ⑤パフォーマンステストの実施状況

## 【中学校】（1学校1学年あたりの回数）

スピーキングテスト（回）H28 2.4→H29 2.9 目標 H30 3.0

ライティングテスト（回）H28 1.9→H29 2.4 目標 H30 3.0

## 【高校】（コミュニケーション英語Ⅰで実施している学校の割合）

パフォーマンステスト H28 37.0%→H29 42.6% 目標 H30 60%

スピーキングテスト（回）H28 1.6 →H29 1.9 目標 H30 3.0

ライティングテスト（回）H28 1.3 →H29 1.6 目標 H30 3.0

## ⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

## 【中学校】

現状 H28 61.3%→H29 64.7% 目標：H30 80%

## 【高校】

現状 H28 44.7%→H29 55.3% 目標：H30 60%

## ⑦域内の全小学校における相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

## 【小学校】

現状：H28 0.8%→H29 0.8% 目標：H30 2.0%

## ⑧域内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

## 【小・中・高校】

各校種 年間8～10回 研修受講者の割合は毎年、英語科担当教員の60%を目標。

## 目標達成のための手立て

## ■①②について目標達成のための手立て：

◆UPWG（英語教育改善委員会）中心に県内各地区で各種研修会を行い、教員の指導力・英語力を向上させ、生徒の英語力の伸長を図る。

## 【共通】

- ・英語教員外部試験助成制度を周知する。
- ・小学校・中学校・高校合同のアップスキルプロジェクト研修会を開催し、小中高連携を進め生徒の英語力の伸張を図る。
- ・アップスキルプロジェクト研修会は、講演会や授業研究会等も英語で討論を行う。
- ・生徒の英語運用能力を向上させるため、CAN-DO リスト形式の到達目標を意識した授業作りを進め、生徒自身が学習成果を確認できる仕組み作りを進める。
- ・生徒の英語力を測る、各種検定試験についても研修会で取り扱う。

## ■③について目標達成のための手立て：

◆県モデルの中学校・高校 CAN-DO リストを用いて、研修協力校やワーキンググループにおいて指導モデルを研究し、県内の中学校・高等学校に発信する。

◆教育課程研究協議会で CAN-DO リストの効果的な活用方法を考え、達成状況の把握につながる研修場面を設ける。

## 【中学校】

- ・教育課程研究協議会等において、H26年度に県独自に作成した CAN-DO リストの県

モデル及び作成の手引きリーフレット等を用いて、各校の学習到達目標の整備に向けた研修を昨年度同様行い、各校の学習到達目標の整備状況を進展させる。

- ・英語科教員を対象に CAN-DO リストを活用した授業改善についての研修を行う。
- 【高 校】 ・CAN-DO リストの形式の学習到達目標を授業改善に活かすための研修を行う。教育課程研究協議会において、各校の CAN-DO リストの形式での学習到達目標を年間計画に落としこむことや達成状況の把握につなげるための実習を行う。
- ・観点別評価を行うため、引き続き、成績集計の方法などの研究を行う。
- ・ワーキンググループにおいて、引き続きパフォーマンステストの実施方法やルーブリック、ポートフォリオ等の作成方法について研究し、教育課程研究協議会やアップスキル研修会で共有する。

【運営指導委員会】

- ・県の取組について、及び各校での学習到達目標の運用について、実効性の高いものとなるよう運営指導委員からアドバイスを受ける。

■④～⑥について目標達成のための手立て：

- ◆UPWG（英語教育改善委員会）を中心に、県内各地区で公開授業やパフォーマンステストのワークショップなどの研修会を行い、授業改善の意識を高め、指導力の向上を図る。

- 【共通】 ・教育課程研究協議会等での公開授業において、CAN-DO リスト活用した授業を英語で行うための方法、生徒の言語活動の充実に向けた授業づくりや評価の方法についての研究協議を行い、情報を共有する。
- ・研修協力校の授業、教員の英語使用の割合が高い授業、生徒の言語活動の割合が高い授業をモデルとしたアップスキルプロジェクト研修会で公開する。
- ・UPWG において、発信型英語運用能力の養成が出来るような活動の研究や、評価方法について研究し県内への周知をする。
- ・英語教育推進リーダーによる伝達研修を行う。
- ・モデルとなる授業等のビデオライブラリーシステムの運用研究。
- ・中高連携や効果的なパフォーマンステストの作成・実施方法をテーマにした中高合同のアップスキル研修会を実施する。

■⑦⑧について目標達成のための手立て：

- 【小学校】 ・担当教諭に、英語教育や外部検定試験について情報を提供し、校内全体の教員に、英語教育に対する意識の涵養を行う。
- ・小学校での英語教科化に備えて教員研修を実施する。
- 【共 通】 ・英語教育推進リーダーによる伝達研修を継続し、今後約2年間で県内すべての教員が受講できるように計画を進める。

## (3) 研修の体系と内容の具体

## ○研修の体系と内容の具体

## 1 研修の体系

## ◆UPWG（アップスキルプロジェクトワーキンググループ）での授業改善への実践的な研究

- ・英語教育推進リーダーや、研修協力校、地域拠点校、中核教員、教育課程研究委員などから委員を選出し、研究を通して連携し英語教育改善に取り組む。
- ・推進リーダーによる伝達講習会の運営。
- ・報告会やニュースレター等で全英語担当教員に研究成果の報告し、英語教育改善プランの普及を図る。

## ◆運営指導委員会

- ・外部有識者による研修協力校やワーキンググループの取組に対する指導助言。
- ・アップスキル研修会や外国語指導助手等指導力向上研修会（Skills Development Conference）等、各種研修会における指導。

## 【小学校】

- ①英語教育推進リーダーによる伝達研修
  - ・研修の成果を各地域（県内4教育事務所単位）で伝達
- ②LEEP 伝達講習後の各校でのカスケード研修
  - ・各校においてカスケード研修を行う。
- ③先進地区の事例を参考とし、各校の英語教育の改善
  - ・小諸市等の県内の先進的な取組に対する公開授業等へ参加
- ④文部科学省から示される新教材等の活用方法についての研修会
  - ・小学校の教科化、3・4年生の外国語活動の導入に合わせた各種教材について、県内各校から代表者を集め、教材の使用について研修を行う。

## 【中学校】

- ①教育課程研究協議会等（県内12郡市にて）
  - ・県独自に作成したCAN-DOリスト及び作成の手引きのリーフレット等を用いて、各校の学習到達目標の設定を進める。
- ②英語教育推進リーダーによる伝達研修
  - ・研修の成果を各地域（県内4教育事務所単位）で伝達
- ③英語指導力アップスキルプロジェクトへの参加
  - ・中学と高校で合同で実施する研修会で、中高の連携を深める。
- ④研修協力校2校
  - ・CAN-DOリストの形式の学習到達目標に基づく日常の授業実践と評価についての研究。
  - ・公開授業を実施し、授業研究会を通じた指導力の向上。
  - ・授業改善に活かすための実践事例を蓄積し、その取組の成果を周知する。
  - ・中高連携の在り方を探り、2拠点地域において異なるテーマで研修を推進。その成果を周知する。

## 【高校】

- ①英語指導力アップスキルプロジェクトへの参加
  - ・授業改善、教員の英語力向上、学習到達目標の実践的な運用・観点別評価の方法やパフォーマンステストの研修機会を設ける。
- ②英語教育推進リーダーの選定
  - ・研修の成果を伝達。2日間の伝達講習会の実施。
- ③教育課程委員会
  - ・CAN-DOリストの形式による学習到達目標の設定から单元ごと、授業ごとの目標設定とその評価方法について研究し成果を発表する。

- ・県内4地区の教育課程研究協議会の準備運営を担当する。特に県内高等学校での取組を調査し、喫緊の課題を見つけ、今後の研修テーマを探る。

#### ④研修協力校3校

- ・CAN-DO リストの形式の学習到達目標に基づく日常の授業実践と評価についての研究。
- ・公開授業を実施し、授業研究会を通じた指導力の向上。
- ・授業改善に活かすための実践事例を蓄積し、その取組の成果を周知する。
- ・長野西高等学校及び上田染谷丘高等学校においては、中高連携の在り方を探り、それぞれの拠点地域において異なるテーマで研修を推進。その成果を周知する。

## 2 具体的な取組内容

### 【小中学校】

#### ①中学校における CAN-DO リストによる学習到達目標の設定推進

- ・昨年度同様、教育課程研究協議会において、CAN-DO リストの県モデル及び作成の手引きリーフレットについて紹介し、各中学校教科会における CAN-DO リストによる学習到達目標の設定を促進する。
- ・研修協力校における調査研究協力及び検証する取組を行う。
- ・中高連携の立場から、高校の英語指導につながる CAN-DO リストの見直し研究を行う。

#### ②教育課程研究協議会における研修

- ・公開授業をもとに研究協議を行う。
- ・英語教育推進リーダー及び指導主事が、国の中央研修の内容について伝達する。
- ・「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料」「長野県小学校外国語活動DVD Hello, teachers!」等DVDを活用した演習を行う。

#### ③英語教育推進リーダーの選定と研修の実施

- ・中央研修の対象となる英語教育推進リーダー（小学校4名、中学校4名）を選定し、県内4地域（北信、東信、南信、中信）で伝達研修を行う。

#### ④小学校の新たな外国語教育に向けた教員研修

- ・新学習指導要領を先行実施する各小学校・特別支援学校小学部から2名参加し、指導力の向上及び英語運用能力の向上を目指し、校内研修の指導者としての資質向上を図る。

#### ⑤その他

- ・英語担当教員対象の外部検定試験の割引制度について周知し、利用を促す。
- ・「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資」などを研修会などで積極的に利用する。

### 【高校】

#### ①英語指導力アップスキルプロジェクト

- ・アップスキルワーキンググループを充実させ、県教育委員会と共に研修会を運営する。
- ・外部専門機関より講師を招き、授業改善について研修を行う。
- ・すぐれた授業を多く公開し、授業改善について研修を行う。
- ・学年が進むにつれて授業内での言語活動や教員の英語使用率が下がることについて、調査し、改善の手立てを考える。
- ・外部専門機関から助言を得ながら、学習到達目標の具体的な運用、特に観点別評価方法の研究を進める。
- ・中学校担当教諭とともに、一貫した到達目標、評価方法について研究する。
- ・高大接続改革に係る大学入試改革への対応の在り方について研究し、周知を図る。

#### ②英語教育推進リーダーの選定と研修の実施

- ・中央研修の対象となる英語教育推進リーダーを含め、県内4地域に英語授業改善の中核となる教員を選定し、研修と授業公開を行う。
- ・英語教育推進リーダーによる講習を行う。
- ・紀要によって研究内容の周知を図る。

**③教育課程委員会**

- ・県教育課程研究協議会を準備企画する。特に準備の段階から、県内高等学校での取組を調査し、喫緊の課題を見つけ、今後の研修テーマを探る。
- ・ワーキンググループの中心として、各校で取り入れやすい評価のフォーマットを研究する。

**④その他**

- ・英語担当教員対象の外部検定試験の割引制度について周知し、利用を促す。
- ・紀要を作成して研究成果を浸透させる。

**3 達成状況の確認と、その後の対応について****◆運営指導委員会による指導と改善プランの改訂**

- ・当該年度の取組について、年度末の運営指導委員会に指導助言を求め、指導をもとに、県教育委員会として、各項目の目標達成状況等を精査し、次年度に向けた改善策を検討し、改善プランの改訂・充実をはかる。

## (4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	推進リーダー選定	
5月	第1回アップスキル研修会（「認定試験」実施団体講師による研修会） 運営指導委員会開催	指導助言・講演会
6月	第2回アップスキル研修会（推進リーダーによる公開授業） 英語教育推進リーダー研修会（LEEP研修参加者） 運営指導委員会開催	指導助言
7月	第3回アップスキル研修会（講演会） 信州大学英語プロジェクト 第1回研修会（共催）	講演会 研修会主催（信州大学）
8月	推進リーダーによる英語教員指導力研修（小学校・中学校・高等学校）	
9月	県内教育課程研究協議会（義務・高校）	
10月	第4回アップスキルプロジェクト研修会（公開授業・講演会）	指導助言 講演会
11月	第5回アップスキル研修会（研修協力校公開授業） Skills Development Conference	指導助言
12月	第6回アップスキル研修会（研修協力校の公開授業）	指導助言
1月	第7回アップスキル研修会（研修協力校の公開授業）	指導助言
2月	第8回アップスキル研修会（合同報告会） 信州大学英語プロジェクト 第2回研修会（共催） 運営指導委員会開催	指導助言 研修会主催（信州大学）
3月	ALT Spring Training Seminar（外国語指導助手研修会）	講演会
<b>【その他の取組】</b> 県内教育機関の機関誌において、各種取り組みについて報告。 県内各英語教育研究団体と連携し、各種研修会を共催 ワーキンググループの作業・研究への支援 文部科学省指定：中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法に関する実証研究への協力		

